

# 類義語「急に」と「突然」に関する一考察

－新聞コーパスを用いて－

趙恩英\*

(e-mail: obasang122000@yahoo.co.jp)

---

## 目 次

---

1. はじめに
  2. 先行研究
  3. 調査の結果および考察
    - 3.1 調査データ
    - 3.2 結果および考察
  4. 結論と今後の課題
- 
- 

## 1. はじめに

副詞「急に」「突然」は、「ある事態が瞬間的に成立する<sup>1)</sup>」ことを共通点とする類義語<sup>2)</sup>で、仁田(2002)は、両者を時間関係の副詞の中、起動への時間量を表す副詞とし、事態の起動・取り掛かるまでの所要時間がきわめて少しであるという「僅少所要型」に分類した<sup>3)</sup>。「急に」「突然」は、これまで、研究者の内省により、意味・用法が検討されてきた。研究データとしては、小説やインターネットの用例が用いられ、使い分けの条件を問うアンケート調査が実施され、両者の違いが検討されてきた。

「急に」「突然」は、以下の(1)のように、どちらも言える場合があり、置き換えられる

---

\* 首都大学東京大学院、人文科学研究科、博士後期課程

1) 「イキナリ・ダシヌケニ・トツゼン・フイニ」(浅野百合子1982 : p.155)

2) 類義語：「語と語のあいだで、意味のかんりの部分が共通するとき、それらは類義関係にあるといい、互いに類義語と呼ぶ」『新版日本語教育事典』(遠藤裕子2005 : p.278)

3) 『副詞的表現の諸相』(仁田義雄2002 : p.247)

特徴を持っていると言えるものの、以下の(2)のように、文脈によってはどちらかが不適切な場合もある。

(1)友人が {急に／突然} 死んだ。(作例)

(2)その美恵子もこの一、二年の間に {急に／×突然} 背が伸びて、おとなびたことをいたり、神経質なほどの潔癖性を発揮したり、金川しまの赤ん坊を異常なまでに可愛がりしたりした。  
(新田次郎(1973)『孤高の人』、p.729)

上記の(2)について、李(2006)は、「背が伸びる」という事柄の発生・成立点の様子(進行過程)に注目し、「その進行過程が何らかの基準に比べ大きい」ことを表し、「美恵子の背の伸びる様子に注目し、その進行過程がとても速い」というように捉えられ、「突然」が用いられないのは、「背が伸びる」という事柄の発生・成立そのものに注目し、それが前触れなく瞬間的に発生・成立するというように捉えられないからであると述べている<sup>4)</sup>。

しかし、以下の(3)のように、「急に」「突然」が可能な場合、「急に」は「倒れた」様子に、「突然」は「倒れた」その瞬間に注目すると解釈ができるのか疑問である。

(3)人が {突然／急に} 倒れた。(作例)

このように、李(2006)の検討の結果ではうまく説明できない部分があり、類義語の違いをどう検討すべきなのか考える必要が生じる。

前田(2001)は、類義語の異同は日本語教育の現場で頭を悩ます事項とし、次のように述べている。

日本語教育に携わる者であれば、ほとんど誰も類義語の差異に関する質問をうけ、頭を悩ました経験をもつであろう。助詞「は」と「が」の違いに関する質問を嚆矢として、教室では様々な類義語の異同を問う質問の矢が飛んでくるのである。「とても」「たいへん」「ずいぶん」の違いは、「いきなり」「急に」「突然」「不意に」は、「いちおう」と「とりあえず」は、「せっかく」と「わざわざ」は、「自然」と「天然」は、「議論」と「論議」の違いは、「ツイニ」「結局」「やっと」「ようやく」「とうとう」は、「たいてい」と「たいがい」の違いはといった具合にこの種の質問はいつ、どこから飛んでくるか分からない。  
(前田昭彦(2001)、p.64)

前田(2001)は、日本語教育の現場でよく質問される項目に、「急に」「突然」を挙

4) 「時間の早さを表す副詞の意味分析」(李澤熊2006 : p.65)

げ、佐治(1998)の分析により、その違いが検討されたことを述べている。しかし、次章で述べるが、佐治(1998)の検討では、再検討の余地があるなど、「急に」「突然」の差異が明確になっていないことから、再検討の必要性がある。

このように、「急に」「突然」は日本語教育の現場でその意味・用法が挙げられているながらも、類義語を大量のデータで客観的に検討した研究はあまり見当たらない。内省や人手に頼った用例分析で気付かれにくい言語事象の記述を検討するには、人々によって実際に使用されたデータを基に両者の現れる事態の検討が先行されるべきである。実態調査から、各類義語によく現れる事態が見えてき、その事態の違いによって、類義語の特徴が言えると思われる。

そこで、本稿は、小説と異なる文体である新聞コーパスを用いて、類義語「急に」「突然」と共起する述語を検討し、述語の出現傾向と出現の多い述語の意味領域の幅の違いから、「急に」「突然」の特徴を明らかにすることを目的とする<sup>5)</sup>。分析の際、述語の意味領域の検討は、『分類語彙表<sup>6)</sup>』を基準にして分類を行う。新聞コーパスを調査対象にするには、いくつかの問題点<sup>7)</sup>があるが、コーパス言語学に関連する留意事項<sup>8)</sup>において、重要視される信頼性がクリアできる点で新聞コーパスを用いる。

## 2. 先行研究

まず、「急に」「突然」について、辞典の記述を見ると、以下のように記述されている。

「急に」：動作・作用が前触れなく行われだすさま。にわかに。突然。

「突然」：①(形動)にわかであるさま。物事が急におこるさま。突如。

- 5) 今回は、構文的な観点からの分析は検討しない。また、工藤(1985)と佐治(1998)、李(2006)の記述から、「急に」「突然」が成立する事態には、「突発性」「予想外」「前触れなし」という共通の意味特徴があるのは明らかであるため、今回は、「急に」「突然」の持つ語の意味特徴も検討しない。
- 6) 『分類語彙表』は、約9万6千語が収録され、現代の日常社会で普通に用いられる語を中心に選択され、体系的に分類されているものである。問題点として多義語の問題があるが、現時点で『分類語彙表』以上大量の語彙を扱い、体系的に分類したものはないと判断し、採択した。
- 7) 新聞データについて、伊藤(2004, p.41)は、「日本語の文書としては、かなり特殊部類に入る。その原因は、限られた紙面に多くの情報をつめこもうとする、凝縮的な文章が主流だからである。a. ワン・センテンスの平均の長さが他の日本語の文章のものよりもかなり長い。b. 臨時一語が多い。c. 事実だけを伝える傾向が強いので、センテンスの骨格となる名詞と動詞が多い。その一方、形容詞や副詞のような修飾成分は少ない。」と述べている。また、横山(2011, p.124)は、「新聞紙面によく出現するある文字がコーパスから消滅している。」ことを指摘している。
- 8) 伊藤(2004, pp.36-37)は、良い調査を行うための五つの条件について、「妥当性、信頼性、客観性、再現性、適応性」を挙げている。

② (副) 急に・不意に。突如。 (『日本国語大辞典』2000)

「急に」：短い時間のうちに、予期しないことが前触れもなく起こる様子。

「突然」：急にある事態が起こる様子。 (『類語大辞典』2002)

「急に」：状態が僅かな時間のうちにプラス・マイナス状態へと速やかに変わっていく。また、時間的幅の中で進行するあわただしい変化を表す。

「突然・突如」：行為・作用・現象などが前触れなしに急に起こるさまに用いる。自然現象・無意識行為・意識的行為、いずれも可能で、ある瞬間に成立する動作・作用・現象に使う。 (『基礎日本語辞典』1989)

辞典での記述から「急に」「突然」は類義語で、両者は、前触れなく起こるさまが共通している。「急に」は、状態が速やかに変わっていき、時間的幅の中で進行するあわただしい変化を表し、「突然」は、ある瞬間に成立する動作・作用・現象に使われることが分かる。

次に、「急に」「突然」についての先行研究は、研究者の直観による研究として、浅野(1982)、国広(1982)がある。また、アンケートを実施し、類似表現の使われる条件を提示した佐治(1998)、認知言語学の観点で検討した李(2006)の研究がある。

浅野(1982)は、「トツゼン」について、ある事態の生じ方が瞬間的であり、その事態と前の状態との断絶が際立っていると述べ、国広(1982)は、「キュウニ」について、ある事態の生じ方が予想外であり、その事態と前の状態との格差が通常より大きいと述べている<sup>9)</sup>。

浅野(1982)は、「トツゼン」「フィニ」の検討の結果、「トツゼン」について、(4)(5)の出来事、(6)の人間の意図的行為、(7)の自然現象の事態に現れ、事態を客観的に描写する際に使われるとしている。

(4)トツゼン都合が悪くなって上京を取りやめた。(浅野1982：p.159)

(5)父は自動車事故でトツゼン死にました。(同上)

(6)友人は私をトツゼン裏切ったのだ。(同上)

(7)トツゼン地震が起こった。(同上)

しかし、浅野(1982)の記述に対し、一つの疑問が生じる。それは、「突然」が、「出来事」「人間の意図的行為」「自然現象」に現れるということは、すべての事態に現れる解釈を可能にし、事態による特徴が見えにくくなることである。また、「人の行為」による事態は、「出来事」と捉えられるなど、「突然」の現れる事態について、もっと詳細に記

9) 「トツゼン」の特徴：「イナリ・ダシヌケニ・トツゼン・フィニ」(浅野百合子1982：p.159)

「急に」の特徴：「タチマチ・スグニ・キュウニ」(国広哲弥1982：p.149)

述すべきである。つまり、「突然」は、出来事、人間の(無)意図的行為、自然現象に現れると記述されているものの、どんな出来事、人の(無)意図的行為、自然現象で現れるのか具体的に記述すべきである。

また、浅野(1982)の記述からは、「急に」の成立する事態は、どんな事態であるのか明らかではない。「急に」の現れる事態は、「突然」と同じ事態であるのか、それとも、違う傾向の事態であるのか疑問を抱く。

次に、佐治(1998)は、「急に」「突然」「いきなり」「不意に」「にわかに」「だしぬけに」「ふと」を類似表現<sup>10)</sup>とし、辞書での用例と作例49項目を基に、20人にアンケートを実施し、これらの表現が使われる条件<sup>11)</sup>を明らかにした。それによれば、使い分けの条件は、「急に」「突然」には共通の部分が多いが、「急に」は「現存事態の動き・変化と無関係」という条件に合うか否かはっきりしないと述べている。また、「突然」は、「行為者の意志的行為」の条件には合わないとしている。しかし、(8)のように、行為者の意志的行為として使われる例があり、また、使用条件の項目の定義がなされていないまま使用条件だけが挙げられ、それぞれの類似表現の相異点は明らかになっていない。

(8)男は女子生徒に道を尋ね、突然、襲った。(97年8月2日)

さらに、アンケート項目には辞書での用例と作例が使われ、実際に使われている類似表現の姿が十分に反映されているか疑問点が残されている。

李(2006)は、認知言語学の観点から「いきなり」「突然」「急に」を検討し、三つの語の共通点として、「話し手がある事柄を前触れなく瞬間的に発生・成立するととらえる」ことを挙げている。また、相違点として、「突然」は「話し手がある事柄の発生・成立点そのものに注目し、まったく予想外・前触れのない瞬間的なものであるととらえる」こととし、「急に」は「話し手がある事柄の発生・成立点の様子(進行過程)に注目し、その進行過程が何らかの基準に比べ大きくとらえる」ことを挙げている<sup>12)</sup>。しかし、(9)のように、置き

10)類似表現とは、同じ(あるいは、よく似た)言語的環境に現れて、よく似た意味や機能を持ついろいろな種類、いろいろな段階の言語形式を指す。日本語教育・学習のどこかの段階で、その使い分けが問題になるようないろいろな表現—「住む」と「暮らす」、「帰る」と「もどる」、「やっ」と「ようやく」、「ついに」と「とうとう」といった類義語をはじめとして、(省略)—があるが、そのようなよく似ていて、どこか違う表現をひっくるめて「類似表現」と呼んでいるわけである。「類似表現研究の一例—「急に」「突然」「いきなり」など—(佐治圭三1989:p.1)

11)副詞の使い分けの条件:「突発性」「予想外」「受け手・観察者・行為者としての感じ」「自然・非情物の動き・変化」は、二つの副詞に使われるとしている。(佐治圭三1989:p.10)

12)個別の意味において、「急に」は、<別義1>:<話し手が><前触れなく瞬間的に発生・成立する><ある語事柄の><発生・成立点の様子(進行過程)に注目し><その進行過程が><何らかの基準に比べて><大きい><ととらえる>、<別義2>:<ある事柄の><傾斜・角度等が><何らかの基準に比べて><大きい>と述べ、<別義1><別義2>の相違点は、「時間の経過を伴うか否か」にあるとしている。「時間の早

換えが可能な場合、「突然」は、「倒れた」瞬間に、「急に」は、「倒れた」様子に焦点があると解釈できるのか疑問である。

(9)人が {突然/急に} 倒れた。(作例 (3)の再掲)

置き換えが可能か否かで類義語の特徴を明らかにすることよりも、成立する事態(上記の(9)では、「倒れる」という述語)によく現れる類義語を明らかにすることが必要であり、また、「急に」「突然」にそれぞれよく現れる事態の傾向を検討するのが両者の特徴を明確にさせやすいと思われる。

このような先行研究の疑問点から、以下のような仮説を立てた。

「急に」「突然」は、すべての事態に現れるが、それぞれよく現れる事態があり、その事態から「急に」「突然」の特徴が明らかにできる。

### 3. 調査の結果および考察

#### 3.1 調査データ

「急に」「突然」と共起する述語を検討するため、『CD毎日新聞データ集』95～97年<sup>13)</sup>、3年分を調査データとして用いる。3年分の新聞から用例を抽出する理由は、1年分の用例の数は、97年の場合、「急に」が417例、「突然」が1347例ではらつきがあるからである<sup>14)</sup>。均衡性に配慮して出現傾向を見るためには数を揃える必要があると判断し、3年分の新聞データから1,000例ずつ抽出し分析を行う。その際、(10)のように、「突然」が名詞で使われているもの、(11)のように、「急に」で終わるもの、(12)(13)のように、述部が省略されたものは対象外とした。

(10)突然の悲報に、遺族は言葉を失った。(97年8月21日)

(11)広がる「O157」…なぜ、今年に限って急にー感染源は？専門家も困惑。

(96年6月22日)

さを表す副詞の意味分析」(李沢熊2006：p.68)

13)用例は、『CD毎日新聞データ集97』(日外アソシエーツ)から抽出した。本稿で用いた『CD毎日新聞データ集』は、首都大学東京大学院日本語教育学教室が、毎日新聞社と交わした利用許諾契約・覚え書き書に基づき使用したものである。語数は、95年、34,016,751語、96年、38,427,209語、97年、41,652,981語である。

14)用例抽出の際、「緊急に・早急に・至急に」、「突然変異」「突然死」などがヒットされた。

このようなものは目で確認し、除いた。また、「突然」の1347例は、「突然」が名詞で使われたものを除いた数である。

(12) テレビ出て急に強気のお寿司屋さん。 (97年2月25日)

(13) しばらく泣いたあと、涙を手でぬぐうと、突然、「ねえ、知っているかい。日本がアルタイを買うという話。日本が主人になれば、うまくいくと思うけどねえ」。 (97年8月21日)

しかし、述語が省略されている文のうち、(14)のように、「体言止め」<sup>15)</sup>を含め、(15)のように、サ変動詞、(16)のように、述語が「(～に)なる・(～と)なる」と再現できるものは対象とした<sup>16)</sup>。

(14) 親の死後急に冷たくなった風。 (95年11月21日)

(15) 調べでは吉野容疑者は同日午前1時45分ごろ、同線吉田一菊川インター間で、後方のトラックにあおられたとして腹を立て急に減速。(96年7月4日)

(16) スノー (日本ハム、74年) テスト入団した異色投手だが、初月給をもらおうと全額引き出し突然行方不明に。(97年5月24日)

### 3. 2 結果及び考察

「急に」「突然」と共起する述語は、「動詞」「名詞+だ」で、(17)のように、「名詞+だ」との共起は、「急に」が2例、「突然」が1例で、ほとんど動詞との共起であった。

(17) 突然無粋な話だが、これを役所的に見ると高校教育の一環になる。(97年8月15日)

共起する「動詞」の出現頻度の高い順10位までをまとめたものが、表1である。表1から、出現頻度の一番高い動詞は、「急に」は「なる」、「突然」は「する」<sup>17)</sup>で、両類義語に共通的に現れたのは、「する」「なる」「言う」「変わる」「出る」「失う」であった。

「急に」に「なる」の出現が多いことから、状態の変化を表す事態が多く、「突然」に「する」の出現が多いことから、動作の動きが多いと言えそうである。しかし、「急に」は、「なる」の次に「する」が多く、また、「突然」は、「する」の次に「なる」が多く出現する傾向から、「急に」は状態の変化を表す動詞との共起、「突然」は動作を表す動詞との共起が多いと断言しにくくなると思われる。また、両類義語が、「する」「なる」と共起すると言えとしても、各類義語に現れる「する」「なる」の形式と意味は異なる可能性があるため、以下は、「する」「なる」について、まず、形式的な面から検討する。

15) 「体言止め」は、「急に」が4例、「突然」が28例であった。

16) 「それが突然、異国で人質に。(97年1月27日)」のように、「する・なる」と再現できるものが1例あった。本稿では、「なる」に入れてカウントした。

17) 「する」は、形式上での分類で、「する」には、サ変動詞をはじめ、感覚を表す「(めまいが)する」、意志表現「(はがそと)する」、副詞につく「(ドギツと)する」、形容詞につく「(荒く)する」、角度を表す表現「(屋根の傾きを急に)する」が含まれている。詳細な内訳は、注18)を参照。

表1. 共起する動詞

順位	急に		突然	
	動詞	頻度	動詞	頻度
1	なる	288	する	255
2	する	114	なる	85
3	増える	41	現れる	27
4	変わる	27	倒れる	24
5	言う	22	言う	23
6	出る	20	ある	20
7	変える	15	襲う	17
8	立つ	12	失う・出る	14
9	減る・思い出す・止まる・失う・上がる	8	起きる・消える	10
10	感じる	6	入る・変わる・崩れる	9

「急に」と共起する「する」は、「する」の前に語があるか否かで二つに分かれる。「する」に前接する語がある場合、(18)のように、サ変動詞「導入する」、(19)のように、感覚を表す「めまいがする」、(20)のように、意志を表す「はがそうとする」、(21)のように、副詞「ドキッとする」、(22)のように、形容詞「荒くする」が現れた。前接する語がない場合は、(23)のように、「急にする」の形で現れた<sup>18)</sup>。

(18)そこに急に近代医療を導入しても患者は戸惑ってしまう。(95年9月15日)

(19)血圧が高く降圧薬をのんでいる人が、急にめまいがした場合は、血圧を測ってみましょう。(95年6月29日)

(20)急にはがそうとするとはがれないが、ゆっくりだとはがれ、何度でも使える。(97年8月27日)

(21)よく経験することですが、しばらくして急にドキッとしました。(95年9月25日)

(22)元労相は記者会見で、淡々と事件への見解を述べていたが、途中から急に語気を荒くした。(95年11月29日)

(23)漏れないようにするには、層を増やすほか、屋根の傾きを急にし、棒を太くすればよいことも判明した。(96年9月9日)

一方、「突然」と共起する「する」は、(24)のようなサ変動詞、(25)のような感覚を表す表現、(26)のような意志表現、(27)のような名詞であった。

(24)同熱は76年にスーダンとザイールで突然発生した後、途絶えていた。(97年3月3日)

18) 「急に」と共起する「する」動詞の前接する語は、サ変動詞が94例、感覚を表す表現が8例、意志を表す表現が5例、副詞が5例、形容詞が1例、角度を表す表現が1例であった。一方、「突然」と共起する「する」動詞の前接する語は、サ変動詞が241例、感覚を表す表現が8例、意志を表す表現が5例、名詞が1例であった。

(25)暗殺犯とされるオズワルドが隠れたテキサス教科書保管所前で、突然銃弾発射の音がする。(97年6月4日)

(26)——英国は撤退前に突然、民主主義を導入しようとした、といわれるが。(97年6月25日)

(27)あなたの趣味の盆栽や絵画展めぐりにお供をするのが私には楽しみでもありましたのに、突然一人にされて、途方に暮れた日々でした。(97年8月7日)

次に、「急に」「突然」と共起する「なる」について見てみる。「急に」と共起する「なる」は、「なる」に前接する語の有無により二つに分かれる。「急に」と共起する「なる」に前接する語がある場合、(28)のような形容詞、(29)のような形容動詞、(30)のような名詞、また、(31)のように、決定を表す表現「～ことになる」、(32)のように、状態の変化を表す「～ようになる」、(33)のように、命令の表現が見られる。一方、「なる」に前接する語がない場合、(34)のように、「急になる」形で現れた。この「急になる」は、人や物事の動きが急いでいる様子を表すものであった<sup>19)</sup>。

(28)十数日で急に明るくなり、1、2年かけて暗くなる。(96年4月15日)

(29)受話器を戻した後、彼は急に不安になった。(96年10月6日)

(30)確かにオリンピックが開催されている2週間は、そのときだけ急にみんなが「日本人」になってしまったり、やけに胸を熱くしたりします。(96年8月7日)

(31)急に飼い主が引っ越すことになった。(96年1月29日)

(32)この傾向は、今年に入って急に目立つようになった。(96年7月29日)

(33)ほかに代わりのものがなくて急に加熱製剤にしろとなって、かなりの混乱が起こることは予想される。(96年7月13日)

(34)——なぜ、妻が一人で合祀墓を買うなどの動きが急になってきたのでしょうか。(95年4月15日)

一方、「突然」と共起する「なる」は、(35)のような形容詞、(36)のような形容動詞、(37)のような名詞、また、(38)のように、決定を表す表現、(39)のように、状態の変化を表すものが見られた。

(35)おだやかな波の少ない時に突然、船の舳先がぐんと重くなる。(97年2月23日)

(36)ビジネスやカネにまつわる話になると、突然元気になる。(97年6月17日)

19) 「急に」と共起する「なる」動詞の前接する語は、形容詞が163例、形容動詞が56例、名詞が35例、「～こと(と)になる」形式が8例、「～ようになる」形式が10例、「～しろとなる」が1例、「急になる」形式が15例であった。一方、「突然」と共起する「なる」動詞の前接する語は、「形容詞」が41例、「形容動詞」が2例、「名詞」が33例、「～こととなる」形式が3例、「～ようになる」形式が6例であった。

(37)15歳の息子が中学生の時に突然、不登校になった。(97年7月7日)

(38)ある日突然、大型総合スーパーが出店することになり、商店街は大騒ぎ。  
(97年8月7日)

(39)作家の山川健一さん(43)は2年前、突然カラフルなオーラが見えるようになったという。  
(97年4月6日)

「する」「なる」の形式上の検討から注目するところは、「急にする」「急になる」のような表現である。「突然」には見られない表現で、両者は、空間的な変化<sup>20)</sup>を表すが、後者の場合、急いでいる動きを表すときもある。このようなことから、「急に」の方が「突然」より現れる表現範囲は広いと言えるだろう。

では、「急に」「突然」と共起する「する」「なる」の意味はどう異なっているのか検討する。「する」「なる」に前接する語の意味範疇の検討により、「急に」「突然」の現れる事態の特徴がより明確に見えてくると思われる。検討の際、「する」「なる」に前接する語は、『分類語彙表』の基準により分類する。

『分類語彙表』での分類は、広い概念から「類」「部分」「中項目」「分類項目」と4分類され、「類」の下位分類は、「体の類」「用の類」「相の類」「その他の類」になっている。「部分」の下位分類は、「抽象的關係」「人間活動の主体(以下、主体)」「人間活動—精神および行為(以下、精神と行為)」「生産物および用具」「自然物および自然現象(以下、自然物)」になっている。下記の表2と表3は、紙面上「類」「分類項目」は省略し、「部分」「中項目」でまとめたものである。

表2から、二つの類義語と共起する「する」に前接する語の意味範疇の共通点は、「抽象的關係」の「作用」、「精神と行為」全般に多く現れた。

「急に」に多く現れた「する」に前接する語は、「抽象的關係／作用／増減・補充」<sup>21)</sup>の「減圧・減少・減速・増殖・増大」、「抽象的關係／量／寒暖」の「ぞくぞく・寒々」、また、「精神と行為／心／注意・認知・了解」の「意識・注目・判明」、「精神と行為／心／感動・興奮」の「どきどき・興奮」、「精神と行為／心／快・喜び」の「そわそわ」、「精神と行為／心／安心・焦躁・満足」の「オロオロ」のような語であった。

一方、「突然」に多く現れる「する」に前接する語は、「抽象的關係／存在／出沒」の「出現・登場・表面化」、「抽象的關係／作用／終了・中止・停止」の「ストップ・中断・停止・停車・停泊」、「抽象的關係／作用／移動・発着」の「渡米・渡欧」、「抽象的關係／作用／入り・入れ」の「突入・侵入・入院」、

20)空間的な変化とは、「傾斜を急にする」「管の先端が急になる」のような例である。時間的に状態が変化するものではないため、本稿では「空間的な変化」と名付ける。李(2006)では、別義2としたものである。ページ13の記述を参照。

21)「抽象的關係／作用／増減・補充」は、「部分／中項目／分類項目」の順で記述した項目である。

「抽象的關係／作用／当たり・打ちなど」の「殴打・衝突・追突」、「抽象的關係／作用／破壊」の「倒壊・爆発・発砲」、「抽象的關係／作用／連れ・導き・追い・逃げ」の「失踪・逃走・連行」、「抽象的關係／作用／往復」の「帰国」、「抽象的關係／作用／出・出し」の「出国」と「精神と行為／生活／処世・出処・進退」の「移籍・引退・辞職・辞任・就任・退職」のような語であった。

表2. 「する」の前接する語

部分	由頭目	急に	突然
抽象的關係	存在	發揮、回復、解消、除外	出現・登場・表面化、発生・連発、凍結、放棄
	様相		故障
	作用	悪化、活性化、活発化、変更・転換、変質、変身、一化、中止・ストップ、横揺れ、先発、ジャンプ、導入、降板・上昇、突出、加速、減速、減少、減速、増殖、増大、拡大、Uターン・バック・反転	暗転、一転、修正、豹変、変化、変更・変身、一化、ブツツン、ストップ、中止・中断、停電、停止、停車、停泊、作動、回転、スピン、渡歌、渡米、ジャンプ、疾走、突入、侵入、入院、乱入、落下、上積み、浮上、分断、離脱、殴打、衝突、追突、邪魔、隆起、倒壊、爆発、発砲、加速、圧倒、流行、失踪、逃走、連行、帰国、出国、提出、噴出
	時間		延期
	形		突起
	量	ぞくぞく、寒々	
主体	人物		出家
人間活動— 精神及び行為	心	女視、実感、意識、注目、判明、決着、要約、改善、発見、どきどき、興奮、そわそわ、オロオロ	求愛、期待、認知、決意、決定、視察、発見、示唆、表示
	言語	発言、主張、発表	断言、表明、言及、ノック、通告、通知、演説、主張、議論、提案、批難、公表、宣言、発表、告白、報告
	生活	流行、ほおずり、ダウン	移籍、引退、辞職、辞任、就任、退職、退職、結婚、トリップ
	行儀	行動、先行、荒い	一人
	交わり	OK、参加、対戦、連勝	解散、会見、拒否、辞退、否定、参入、離党、出撃
	待遇	申請、禁止	釈放、逮捕、解雇、解任、更迭、指名、請求、申請、解除
	状況	下落	プレゼント、供与、授与、破産
	事業		廃業、休診、打診、消灯、発射、乱射、連射、使用
自然物および自然現象	自然	しん	
	物質	増水、膨張	
	生命	絶滅、生き生き、寒気(さむけ)・発症	開花、殺害・死亡、他界、破水、ケイレン・発症、発病

次に、表3から、「なる」に前接する語を見ると、全体的に「抽象的な関係」と「精神と行為」に多く現れた。

「急に」の場合、「抽象的な関係／様相／難易・安危」の「きな臭い・厳しい・不能・難しい」、「抽象的な関係／量／広狭・大小」の「狭い・細い・太い・大きい」、「抽象的な関係／量／寒暖」の「軽い・高温・熱い・涼しい・冷たい」が見られた。

表 3. 「なる」の前接する語

部分	山頂目	急に	突然
抽象的関係	重箱	もの	現実
	類	近い	
	存在	- ない、- 風	- ない
	様相	本調子、おかしい・ - がち、邪魔だ、悪い・ 良い、まばら、濃い、派手だ、きな臭い・ 激しい・ 不能・ 難しい	おかしい、悪い、甘い、醜い
	力	強い・ 激しい・ 荒い	強い・ 激しい
	作用	活発だ・ 不安定だ、追加、展開、- ぼい、打ち切り・ 中止	打ち切り、行方不明
	時間	早い・ 速い	
	形	- 形	
人間活動の主体	量	多い、高い、深い、身近だ、狭い・ 細い、太い、大きい、重い、軽い・ 高温・ 熱い、涼しい、寒い、冷たい・ 冷ややか、センチ・ 台	大きい、重い、肌寒い、センチ
	人間	- 者・ - 屋	婦らぬ人
	家族	兄	母親
	仲間	パート ナー	
	人物	日本人、人気者	人質・ 大天才
	成目		シンガー、上級生、監督
	公私		
	社会	世界・ 社会	銀行
人間活動一精神および行為	生涯	あわただしい	
	心	気、元氣だ、痛い、楽だ・ 心配だ・ 不安だ・ 冷静だ、苦しい・ 息苦しい・ 辛い・ 悲しい、眠い、おもしろい・ 興ざめ、恐ろしい、怖い、いとおいしい・ かわいそう・ バカバカしい・ 懐かしい・ 好きだ・ - 嫌い、陰気だ・ 険しい、恥ずかしい、- たい、怪しい・ 慎重だ	元氣だ、痛い、問題、笑い、大声、- 顔、- たい
	言語	滑らかだ・ 無口だ、話	
	生涯	豪勢、忙しい	不登校
	行為	おとなしい・ 優しい、偉い・ 乱暴だ、バカ、鋭い・ 上手だ・ 下手だ、どう猛	凶暴・ 品行方正
	待遇	資本主義、よそよそしい・ 冷たい	自由、死刑
	空回り	仲良い	
	経済	高い、必要だ、寂しい	有料
生産物および用具	食料		食品
	土地利田		山道
自然物および自然現象	自然	明るい・ 暗い、鮮やかだ、やかましい・ 静かだ・ 賑やかだ、硬い	暗やみ、暗い・ 明るい、真っ黒・ 赤い
	物質	強風	熱い
	生物	宇宙人	
	身体	- 顔	
	生命	不帰の客、病氣	痴呆・ - 症・ 白血病

特に、「精神と行為／心／安心・焦躁・満足」の「心配だ・不安だ・冷静だ」、  
 「精神と行為／心／苦悩・悲哀」の「苦しい・息苦しい・辛い・悲しい」、「精神と  
 行為／心／快・喜び」の「おもしろい・興ざめ」、「精神と行為／心／恐れ・怒り・  
 悔しさ」の「恐ろしい・怖い」、「精神と行為／心／好悪・愛憎」の「いとおいしい・か  
 わいそうだ・バカバカしい・懐かしい・好きだ・嫌いだ」などのように、人の感情や感覚を  
 表す語が多く見られた。また、「自然物／自然／音」の「やかましい・静かだ・賑やか  
 だ」が見られた。「急に」の場合、(40)のように、人の心の感情の変化を表す事態、  
 (41)のように、物事に対する人の感情の変化を表す事態、(42)のように、物事の状態の変  
 化を表す事態などが現れる傾向があった。

- (40)こんなことを書いていたら、なんだか急に昔の友達が懐かしくなった。 (95年6月2日)  
(41)味方と思っていた周囲も急に冷たくなり、やる気を喪失。 (96年1月29日)  
(42)十数年前までは選挙のときに数百万円程度渡したことはあった。しかしその後、急に税務調査が厳しくなって、やっていない。 (95年11月7日)

また、「急に」には、上記の(40)～(42)とは異なる事態を表すものがあった。下記の(43)(44)は、時間的な幅での変化ではなく、空間的な幅での変化を表している。(43)は、実質的な形をしている管の太さが細くなっていることを表しているが、このように、具体的なものの空間的な変化を表すものは「急に」のみ現れた。また、(45)は、時間的な幅、空間的な幅での変化ではなく、急いでいる動きを表すものも「急に」のみ現れた。

- (43)温度計のさや管は、根元が太く、先端が急に細くなる段付き構造になっている。 (96年9月20日)  
(44)ここが虎跳峡である。流れは急に狭くなり、水が爆発しているのだった。 (95年5月7日)  
(45)——なぜ、妻が一人で合祀墓を買うなどの動きが急になってきたのでしょうか。 (95年4月15日 (34)の再掲)

一方、「突然」と共起する「なる」に前接する語は、「急に」と比べ、大きな特徴は見られなかったものの、「抽象的関係／作用／連れ・導き・追い・逃げ」に入る「行方不明」、「主体／人間／老少」の「帰らぬ人」、「精神と行為／生活／学事・兵事」に入る「不登校」、「精神と行為／待遇／刑」に入る「死刑」など、マイナス意味の語が見られた。

「する」「なる」の意味上の検討から、「急に」「突然」には状態の変化を表す事態が共通的に多く現れたものの、「急に」は、感情的な変化、「突然」は、地位・場所・動きの変化など外面的な変化に多く現れる傾向が見られた。以上、「急に」「突然」に多く出現した「する」「なる」について見たが、以下は、表1から「急に」「突然」に共通に現れる述語と各類義語ごとの特徴が見られる述語について見ていく。

まず、「急に」「突然」に共通的に見られた「言う」は、人の意識的な行為を、「変わる」は、人の人格と気持、物事の状態の変化を、「出る」の場合、(46)(47)のみ、人の意識的な行為を、その他は(48)のように、疲れ・損・熱・症状などの状態の変化を表すものであった。「失う」は、意識・気・職業・夫・関心・力などを失うことで、状態の変化であった。

- (46)柳さんは急に出てきたので、実戦でそう当たったことがなく、どういう基かはっきり言えません。 (96年4月28日)

(47)ただ、突然私が出てきて、これまでの雰囲気壊さないかと、それが心配で……。  
(97年3月7日)

(48)坂道のある東京競馬場で調教を始めたのだが、急に腰に疲れが出てしまった。  
(96年7月6日)

「急に」に現れるのは、(49)のように、「増える」「減る」「上がる」など、状態の変化を表す動詞と、(50)「思い出す」のように、思考動詞とよく共起する傾向が見られた。

(49)新CDの発売以来、急に若いファンが増えたとか。  
(96年9月9日)

(50)晴れ着を着た子供を街で見かけて、急に思い出し、古いアルバムを引っ張り出した。  
(95年11月17日)

「急に」に現れる状態の変化を表す事態の特徴は、次の(51)のように、一回で済む事態の変化ではなく、連続する過程の中で成立する事態であった。気温が24度までは1度上がる発汗量は、0・6グラムずつ増えたが、24度を超えると1・7グラムと3倍になり、発汗量は24度付近を境に急に増えることを表す文である。ここで、発汗量が増えるという事態は一回に成立するのではなく、連続する過程の中で成立する事態で、その発汗量の「増える」事態が急に起きたことを表す。

このように、「増える」「減る」「上がる」などは、ある事態が増えたり、減ったり、上がったたりする、連続する過程の中における事態の現れであり、そのような事態が急に成立したことを表す。

(51)また、気温24度までは1度上がるごとに発汗量は0・6グラムずつ増えたが、24度を超えると1・7グラムと3倍になった。米国の研究でも24度付近を境に発汗量が急に増えることが報告されている。  
(96年8月7日)

また、(52)(53)のように、「急に」「突然」は「思い出す」と共起するが、思考を表す「思い立つ」「思いつく」、感覚を表す「感じる」は、「急に」の方が「突然」より多く現れた。

(52)晴れ着を着た子供を街で見かけて、急に思い出し、古いアルバムを引っ張り出した。  
(95年11月17日 (50)の再掲)

(53)昔ヒットしたS F ホラー映画「エイリアン」を突然思い出し、ぎょっとした。  
(97年9月17日)

一方、「突然」と共起するのは、(54)(55)のように、人や物事の状態の変化を表す「現れる」「消える」、(56)のように、病気などで人の状態の変化を表す「倒れる」、(57)のように、病気や自然災害などが人や物事に影響を与える「襲う」、(58)のように、存在を表す「ある」とよく共起する傾向が見られ、「する」「言う」以外は、状態の変化を表す動詞が多かった。

- (54)大学の教室でサークル仲間と打ち合わせをしていたら、男が突然現れた。  
(97年4月30日)
- (55)それが、ある日突然、娘は母の前から消えてしまった。  
(97年1月22日)
- (56)わが旦那が突然、脳出血で倒れ、すぐ開頭手術。  
(97年9月3日)
- (57)予期しない原因不明の病が、突然私の体を襲ったのは、更年期の真っ最中だった。  
(97年2月21日)
- (58)突然、弁護士から連絡があり、姉と私の娘の養子縁組を解くことや、財産分与について細かな注文をつけてきた。  
(97年4月23日)

また、「襲う」との共起において、(59)のように、「急に」とも共起するが、「突然」の事態とはやや異なっている。「急に」の場合、襲ったのは人の思いや感情がほとんどであったが、「突然」の場合は、(60)(61)のように、人を始め、病気や自然災害などが多かった。「襲う」との共起から、同じ語であっても表す事態は異なる可能性があると言える。

- (59)「死んじやったんだ……」。急に襲った実感に、なかなかピントが合わせられなかった。  
(96年7月9日)
- (60)男は女子生徒に道を尋ね、突然、襲った。  
(97年8月2日 (8)の再掲)
- (61)予期しない原因不明の病が、突然私の体を襲ったのは、更年期の真っ最中だった。  
(97年2月21日 (57)の再掲)

さらに、「急に」における「増える」「減る」「上がる」などは、上述で見た「する」に前接する語「加速・減圧・減少・減速・増殖・増大」と同様に、連続する過程の中で成立する事態に現れる共通点を持つ。また、「急に」の「思い立つ」「思いつく」「感じる」も、上述の「する」に前接する語「ぞくぞく・寒々」「ときどき・興奮」「そわそわ」「オロオロ」と同じく人の感情や感覚を表す事態に現れる点で共通している。頻度の高い「する」と他の動詞が表している事態は共通の意味を持っていることが言える。

一方、「突然」においても、「現れる」「消える」「倒れる」と、上述での、進んでいたものや動いていたものが止まったりする事態を表している「ストップ・中止・中断・停

止・停車・停泊・閉鎖」、ある場所や地位に移動したり、移動させたり、離れたり、辞めたりする「渡米・渡欧」「帰国」「出国・提出・噴出」「移籍・引退・辞職・就任・退職・退陣」などは、一回に成立する事態を表している点で共通している。このように、「突然」は、一回に成立する動作の動きや存在の変化を表す事態によく現れることが言える。

以上、「急に」「突然」と共起する述語の検討により、「急に」「突然」の現れる事態の特徴が明らかになったと思われる。「急に」「突然」は、共通の事態に現れながらも、「急に」は人の感情や感覚、連続する過程に成立する事態に、「突然」は一回に成立する事態に現れ、また、「急に」「突然」は、状態の変化を表す事態に現れるものの、その事態はそれぞれよく現れる類義語があることが今回の検討で明らかになった。

## 6. 結論と今後の課題

類義語「急に」「突然」によく現れる事態があるという仮説を立て、「急に」「突然」と共起する述語を中心に検討し、多く共起した「する」「なる」を『分類語彙表』を用いて分析した。その結果、仮説の通り、「急に」「突然」すべての事態に現れる共通点を持ちながら類義語ごとによく現れる事態があることを述べた。以下、「急に」「突然」の現れる事態の特徴を国広・浅野で述べている意味・用法の記述に付け加えられると思われる。

- ・国広(1982)の記述：「急に」は「ある事態の生じ方が予想外であり、その事態と前の状態との各差が通常より大きい」
- ・付け加えられる内容：「急に」の現れる事態とは、人の感情・精神・感覚・思考など外部に対する主体の内面的な変化、また、連続する過程の中で成立する事態、自然物・物事が時間的・空間的に変化する事態、人や物事の動きが急いでいる事態が多い。
- ・浅野(1982)の記述：「突然」は「ある事態の生じ方が瞬間的であり、その事態と前の状態との断絶が際立っている」
- ・付け加えられる内容：「突然」の現れる事態とは、主体の位置、地位、所属などを含め、存在の外面的な動作の動きや状態の変化、病気など、ある原因による人の状態の変化を表す事態が多い。また、望ましくない結果になった事態が多く、成立する事態は一回にとどまることが多い。

以上、結論として言えることを先行研究に付け加えた。しかし、本研究では、以下のよう

な限界がある。

新聞データから各1,000例ずつ抽出し、検討したが、データの数は大いとは言い難く、データの数少なから、偏りがある危険性がある。この点については用例の数を増やし、検討する余地があると思われる。また、本研究は、意味領域の検討において、『分類語彙表』の分類に従ったが、『分類語彙表』の問題点から、分類する際に以下のように、その意味範疇とは思わない例がいくつか出た。(62)のように、人が「静かに」なったことを表す文であるが、『分類語彙表』では「自然」の項目に入っていたり、(63)のように、人の発言が少なくなったことを表す「重い」の場合、「抽象的關係」の「量」に入るようになり、その結果、「口が重くなる」が「肩が重くなる」「頭が重くなる」と同じように扱われる問題が生じた。意味を分類する際に新しく範囲を設ける必要があったのではないかと思われる。

(62)いろいろな湯船を見てはしゃいでいた娘たちが、急に静かになりました。(95年2月4日)

(63)だが、どうやって改革したらいいかになると急に口が重くなる。(95年4月20日)

また、本研究は、『分類語彙表』の基準に従い、実際の例に当てはまらないものを修正し、表に反映することはできなかったが、今後、実際の用例を優先し、二つの類義語の語の意味について改めて考えていきたい。

## 【参考文献】

- 浅野百合子 (1982)、「イキナリ・ダシヌケニ・トツゼン・フィニ」『ことばの意味 3 辞書に書いていないこと』平凡社. pp.154~161
- 伊藤雅光 (2004)『計量言語学入門』、大修館書店.p.41,pp.36~37
- 工藤浩 (1985)「日本語の文の時間表現」『言語生活』403、筑摩書店. pp.48~56
- 国広哲弥 (1982)「タチマチ・スグニ・キュウニ」『ことばの意味 3 辞書に書いていないこと』、平凡社. pp.146~153
- 江 雯薰 (2008)「時間副詞に関する一考察—「とつぜん」と「ふいに」を中心に—」『岡大國文論稿』36号、岡山大学文学部言語国語国文学会. pp.68~58
- 国立国語研究所(編) (2004)『分類語彙表-増補改訂版』、大日本図書
- 佐治圭三 (1998)「類似表現研究の一例—「急に」「突然」「いきなり」など」『無差』5号、京都外国語大学日本語学科. pp.1~16
- 仁田義雄 (2002)『副詞的表現の諸相』、くろしお出版
- 横山昭一 (2011)「コーパス本文批評と統計的検定の考え方」『講座ITと日本語研究5 コーパスの作成と活用』荻野綱男・田野村忠温(編)、明治書院. pp.123~143
- 李 澤熊 (2006)「時間の早さを表す副詞の意味分析」『名古屋大学日本語・日本文化論集』No.14、名古屋大学留学生センター. pp.45~71

## 【辞書類】

- 『基礎日本語辞典』(1989) 森田良行、角川書店
- 『新版日本語教育事典』(2005) 社団法人日本語教育学会(編)、大修館書店
- 『日本国語大辞典第二版』(2000) 小学館国語辞典編集部、小学館
- 『類語大辞典』(2002) 柴田 武・山田 進(編)、講談社

## 要 旨

副詞「急に」「突然」は「ある事態が瞬間的に成立する」ことを共通点とする類義語で、これまで内省による質的な観点で研究がなされてきた。本稿では、新聞コーパス、3年分から1,000例ずつ抽出し、客観的・計量的な方法で「急に」「突然」の現れる事態について、共起する述語を分析し、各類義語に現れる事態の特徴を明らかにした。

分析の結果、「急に」は、「なる」「する」順で、「突然」は、「する」「なる」順で多く出現した。「する」「なる」の他、共通的に「言う」「変わる」「出る」「失う」が現れた。「急に」は、連続する過程の中で成立する「増える」「減る」「上がる」、「突然」は、一回で成立する「現れる」「倒れる」「崩れる」とよく共起した。特に、「急に」は、時間的な幅での検討のみならず、空間的な変化や急いでいる動きの様子の「急に作る」「急になる」が見られた。

本稿で先行研究の記述に付け加えられるのは、「急に」の現れる事態とは、人の感情・精神・感覚・思考など外部に対する主体の内面的変化、連続する過程で成立する事態、自然物・物事が時間的・空間的に変化する事態、人や物事の動きが急いでいる事態が多い。一方、「突然」の現れる事態とは、地位や場所などを含め、主体の存在の外面的な動作の動きや状態の変化、病気など、ある原因による人の状態の変化、望ましくない結果になった事態が多い。成立する事態は、一回にとどまることが多いことである。

キーワード：類義語、「急に」、「突然」、事態、共起、分類語彙表

투 고 : 2011. 11. 30

1차 심사 : 2011. 12. 17

2차 심사 : 2012. 1. 7